



「五ヶ瀬中学校校歌より」

学 び 舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
令和 元年 12月24日
No.8
文責：校長 戸敷 二郎

五ヶ瀬デザインプロジェクト(GDP)表彰式

各 賞	氏 名	提 言 内 容
最優秀賞:町長賞	甲斐陽南子	災害対策をして、安心・安全な町にしよう
優 秀 賞:副町長賞	山下 結衣	五ヶ瀬町に若い女性の農業従事者を呼び込もう
優 秀 賞:教育長賞	甲斐 竜童	若者と高齢者がふれあえる町にしよう
夢わく賞:課長賞	池田なつほ	町内の公衆トイレを充実させよう
夢わく賞:課長賞	西川 未楽	木地屋を盛り上げて町を活性化しよう

今月12日に本年度の五ヶ瀬デザインプロジェクト(GDP)の表彰式が行われました。今回で3回目となる表彰ですが、上の表の5人が表彰されました。

今年度は2学期前半の3年生の多忙さを少しでも軽減するよとすることで、前年度の2年生の時期からテーマ設定などに取り組み、夏休み前には骨組みができあがっている状況を作りました。

仕上げに向けては、夏休み前後に役場各課の皆さまからのご指導を受けたり、自身でデータを集めたりして『私が考える町づくり』の提言をまとめました。

表彰に向けての審査会では、毎回、役場の各課から温かい励ましの言葉や鋭いご指摘などもいただき、生徒達の学びにとってありがたい刺激となっています。

常日頃から伝えている「地域住民の一人として何ができるのか？」という問いに中学生なりの考えを示してくれた22の提言でした。

夏の五ヶ瀬祭り会場でも、ボランティアではなくスタッフの一員として、会場のゴミ回収を一手に引き受けやり遂げるなど、私たちが**大人扱い**することで、子供たちの潜在能力を花開かせることができる！このことを再確認できた今回の表彰式でした。



環境問題、道筋を作るのは大人の責任



上の言葉は**ノーベル化学賞の受賞式から帰国した吉野彰さん**(旭化成名誉フェロー)のインタビューで述べられたものです。折しもCOP25(国連気候変動枠組条約第25回締約国会議)がスペインで同じ時期に開催されたことや、ご自身が開発されたリチウムイオン電池の普及が環境問題の解決につながることを念頭においた発言であったと思います。また、インタビューで吉野さんは「若者達は将来の自分たちの生活環境に恐怖心を持っているのではないか？その恐怖心をぬぐい去るのは大人の責任ではないか？」とも述べられています。

今回の『学び舎No.8』の裏面に**またしても特集**しますが、人間の内部環境にも大きな影響を与える可能性の高い「通信機器の利用」についても、私は吉野さんと同じ考えを持っています。ただ、大きく違うところは、我々大人達も子供達も、通信機器の不適切な利用が将来の自分の生活に悪影響を及ぼすのではないかという**危機感**をあまり感じていないという点です。その証拠に、スウェーデンの16歳少女グレタ・トゥーンベリさんが巻き起こした環境問題に対する世界的な若者の抗議活動は、外部環境の悪化に対するものが主です。通信機器の不適切な利用が内部環境等に影響を及ぼすという危機感に立った**若者自身の自発的取組**は、生徒会でルール作りをするなどの取組(本校にもGルール)が散見されるものの、まだまだ我々大人がリードしなくてはいけない面がたくさんあると思います。どうぞ、裏面をご覧ください！

第8回テーマ 冬休み前通信機器利用の再確認

～子供の将来を守るのは保護者の勤め！ 持たせるのならルール作りを！～

以下のアンケート結果は10月に県教育委員会の主導で県下一斉に実施された「携帯電話・スマホなどについてのアンケート」の本校分の結果（一部）です。

<p>Q あなたは、自分専用の携帯電話かスマホを持っていますか。</p> <p>○持っている 52%</p> <p>○持っていない 48%</p> 	<p>Q あなたの家では、携帯電話やスマホなどの使い方について何かルールがありますか。</p> <p>○ルールを決めている 45%</p> <p>○特にルールは決めていない 55%</p>
<p>Q あなたの、自分や家族の携帯電話やスマホ、タブレット、ゲーム機、パソコンなどの1日の使用時間はどれくらいですか。（この結果は人数で示しています。）</p> <p>○使用しない…2人 ○30分以内…7人 ○1時間以内…17人</p> <p>○1時間～1時間30分…16人 ○1時間30分～2時間…10人</p> <p>○2時間～2時間30分…3人 ○2時間30分～3時間…3人 ○3時間以上…7人</p> 	

本校独自の4月段階の調査では、通信機器の所持が44%、家でルールありが36%などでしたので、全体的に所持率が増えるとともに家でルール設定も増えていると言えます。これから冬休みに入り、クリスマスやお年玉、さらにその先の卒業祝いや入学祝いなどを考えると、子供たちの通信機器の所持率は上がる一方だと考えられます。

若年期の睡眠不足やブルーライトの影響の検証はこれから

先日、郡内の校長・教頭先生方を中心とした会でいつもの「講話」をする機会をいただき、改めて資料を見直し、できるだけ現場の先生方に最新の情報をお伝えしようと新規に作った資料が右のものです。

夜間のブルーライトが睡眠ホルモンを抑制することはこれまでお伝えしてきた通りですが、夜間に浴びるブルーライトの影響は右のような理由から、大人よりも子供の方が大きく受けること。さらに恐いのが「子供の頃に（夜間に）長時間のブルーライトを浴びることが、成長後にどのような影響を及ぼすか立証されていない。」ということです。資料のイラストにあるように、本来睡眠をとるべき時間帯に寝床の中などでブルーライトを浴びながら睡眠時間を削る子供たちの生活スタイルは、近年になって顕著に見られるため、医学的・科学的に検証されるのは子供たちが大人になっていくこれからということです。多くの研究者が「これらの環境はよくない！」と予測していることから、今のうちにルールを作るなどの管理をしっかりと行うことが私たち大人の勤めだと思っています。アンケート結果に出た**1時間以上の利用者39人(60%)**は特に、今一度話し合いの機会を設定して、できる限り夜間の使用を最小限にとどめてほしいものです。

子供の目は非常に柔軟性が強く、大人のように簡単に目が疲れたりしない。
その（自覚がない）ために、長時間にわたって画面を見続けることになり、そのことが成長後にどのような影響を及ぼすかは、まだ立証されていない。

大人の場合、老化に伴って目の水晶体が濁り、ブルーライトをカットしている状況があるが、子供の場合は水晶体も透過しており、ブルーライトの影響が大人よりも大きいことは間違いない。

千葉中央メディカルセンター眼科部長 池尻充哉 医師



便利な情報通信機器類

製品の危険性(未熟性)を知らながら

作ったのも

子どもたちを販売戦略のターゲットとして

売りつけたのも

危険性や有用性を学ばない(調べない)で

買い与えたのも

私たち**大人**

私たち**大人**

私たち**大人**

これらの光と影を何も教えられず

犠牲になっていくのは

子どもたち

の言葉をかみしめ、次の世代を担う若者たちに夢と希望を与える責任があるのではないのでしょうか。

私たち大人の責任

左の資料はいつも「講話」で示しているものです。

ほんの十数年前、職場で携帯電話を使っていることは何となくはばかられる雰囲気がありました。しかし、今は仕事上の電話やメールなどが当たり前のように個人の通信機器に届き、普通に使用している状況があります。

時代の流れがそれを突きつけ、私たちはそれに飲み込まれていっているような気さえします。このような時代を作ってきたのは間違いなく私たち大人であり、そのメリット(光)やデメリット(影)を検証しながら時代を進めていく責任があると思います。私たちは吉野彰さんの